

## 外国人留学生保護者の大学教育と留学生支援に対する期待と満足

—ベトナムでの保護者会を通して—

### Expectations and Satisfactions of International Students' Parents and Guardians to University's Education and Student Supports

— Through the Parent-Instructor Conference in Vietnam —

次世代教育学部国際教育学科  
大平真紀子  
OHIRA, Makiko  
Department of International Education  
Faculty of Education for Future Generations

キャリアセンター  
唐木 義子  
KARAKI, Yoshiko  
Career Center  
Executive Office

次世代教育学部国際教育学科  
小川 正人  
OGAWA, Masato  
Department of International Education  
Faculty of Education for Future Generations

キーワード：外国人留学生，学生支援，保護者，危機管理

要旨：本稿ではベトナムにおける保護者会を通して，留学生の保護者が大学に対して何を望み，どのような支援を必要としているのかについて明らかにするとともに，大学における外国人留学生に対する危機管理を含む多様な支援の必要性について述べる。

教育機関に寄せる保護者の関心や期待は年々高まっている。それは外国人留学生の保護者においても同様もしくはそれ以上である。大学の外国人留学生数の増加に伴い，保護者への説明責任も必要性も高まってきている。本学では，留学生数が最も多いベトナムにおいて保護者会を開催している。ベトナムでの保護者会では大学の方針や教育の取り組み，生活支援や就職活動支援などを説明している。保護者は大学の教育や支援を理解し満足している一方，留学している子どもたちに自らができない支援などを大学に期待していることが明らかになった。

#### 1. はじめに

2008年に政府が策定した「留学生30万人計画」により，外国人留学生は増加の一途をたどり，平成29年（2017年）5月1日時点で，日本で学ぶ外国人留学生の数は267,042人と過去最高となった（日本学生支援機構，2018）。各教育機関における外国人留学生数は着実に増加し，その多様化も飛躍的に進行している。しかし，外国人留学生の急激な増加や多様化の進行は教育機関の予想を超えるものであり，受け入れ体制の整備は十分に整っているとは言えないのが現状である（黒田，2012）。各教育機関では，日本語教育を中心と

する教育カリキュラムの整備と共に，外国人留学生への支援体制の充実が急務となっている。しかし，外国人留学生への支援といっても，その内容は多岐に渡る。

稲井（2011）は，外国人留学生支援を経済的問題，日本人との交流の問題，学業・進学の問題の三つに分けて大学生にアンケート調査を行った。その結果，外国人留学生は，経済・交流面の生活支援と，学業・進路面の学業支援を必要としていることが明らかになった。横田・白土（2004）は，留学生支援に「留学生アドバイジング」<sup>（注1）</sup>という言葉を用い，留学生アドバイジングの目的を6つに定義し，外国人留学生は

一般の日本人学生に比べてハイリスク・グループ（危機に陥る可能性の高い集団）であるとしている。そして、その理由を三つの点から記述している。第一は、彼らが多くの課題を「同時に」抱える存在であることである。外国人留学生の抱える問題とは、①アカデミックな課題の達成、②青年期特有の発達の課題、③経済的自立、④日本語の習得、⑤日本という異文化への適応である<sup>(注2)</sup>。第二にそれらの課題を解決するためのリソースが決定的に少ないこと、第三に外国人留学生を受け入れる側にも彼らの危機をどう未然に防ぎ、あるいは実際に発生したときにどう対処すればよいかというノウハウ体制も、そしてその責任の認識も不十分なことである。

近年、大学教育において、留学だけでなく、国際交流やボランティア、インターンシップなどの学外教育プログラムは活性化してきている。しかし自然災害、テロ、感染症などのリスク要因が多くなっている。こうしたリスクに対応するために、マニュアルやハンドブックを作成して危機管理に対応する大学も増えている。最近では、保護者対応を危機管理の一環として考える傾向にもある。城内（2016）は、日本人学生の事例ではあるが、事件が起こったあとの保護者対応の事例について取り上げ、どのように保護者対応を行うべきかについて述べている。しかし、保護者対応には事件が起こった事後的なものだけではなく、事件が起こる前から良好な関係を作っておくことも含まれる。つまり、常日頃から保護者と積極的に接触し、大学の教育や活動に理解を得、大学の支援者となってもらうことである。

環太平洋大学（以下、本学）では、教育・生活・就職支援等について保護者の理解を得る取り組みの一つとして、全学生の保護者に対し本学のある岡山だけでなく、広島、福岡、神戸、那覇など出身学生の多い地域でも保護者会・保護者面談を実施している。外国人留学生に対しても同様に、留学生教育担当の本学教職員が出身留学生の最も多いベトナムへ赴き、保護者へ大学の教育活動や学生の活動成果を報告する保護者会を行っており、本年度で3回目となった。本稿ではベトナムでの保護者会を通して、外国人留学生の保護者の大学への期待と満足について概観するとともに、大学における留学生に対する危機管理のあり方についても考えたい。

なお、先行研究には、「支援」という用語を用いているものと「サポート」という用語を用いているものがあるが、本稿では「支援」という用語を用いるこ

とにする。

## 2. 大学における留学生支援の現状

大学における外国人留学生支援の一環として、経済的支援としての学費の減免制度を行っている大学は多い。各大学が独自の基準に基づいて学費の減免制度を行っている。減免率は20%程度のところから100%全免の大学まで様々である。

日本人との交流に関しては様々な事例が紹介されている。横浜国立大学では、外国人留学生と日本人学生に交流の機会および学びの場を提供するという目的のもとで日本語スピーチ大会を行っている。スピーチ大会の支援を通して、留学生と日本人学生が協力して活動していたことが実証された（半沢，2018）。

就職支援については、近年の国際化や少子高齢化を起因とする労働力不足の傾向を受け、また企業が外国人留学生を積極的に採用していることもあり、多くの大学が外国人留学生に対する就職支援の取り組みを始めている。たとえば、関西大学では日本語能力向上のためのビジネス日本語の授業、留学生に特化したキャリア教育、異文化理解促進のためのシェアハウスやカフェを開くことなどによって就職支援を行っている。創価大学でも留学生向けキャリア教育として、ビジネス日本語の授業やインターンシップなどを行っている（「教育機関における留学生就職支援関係教職員向けセミナー」2018年11月15日開催より）。

外国人留学生に対し、学習・生活関連支援を行っている大学も多く存在する。北海道大学留学生センターでは2008年から「留学生サポート・デスク」を設置している（青木・高橋，2009）。これは外国人留学生同士がピア支援する制度である。主な業務は問い合わせの対応、書類作成支援、賃貸住宅の入退去手続き支援、翻訳サービス、留学生に役立つ情報の集積・提供、学内の電話通訳である。岡山大学では、「留学生支援ボランティア・WAWA」と称するボランティアグループがあり、新入留学生の受け入れ支援、チュートリアル・サービス、留学生家族のための日本語教室、異文化交流イベントの4つを柱に活動を行っている（岡・安藤，2013）。文化学園大学は、外国人留学生が安心して勉学に専念できる大学を目指して、読書環境の側面から外国人留学生支援について取り組んでいるし（吉田，2018）、東北大学附属図書館では外国人留学生による図書館利用・学習相談サービスとしての「留学生コンシェルジュ」制度を導入している（西

村・大友・吉植, 2017)。

### 3. 本学における留学生支援の実例

本学においても各種の留学生支援を行っている。

経済的な支援としては学費の減免制度、日本人との交流に関しては学内外での各種イベントを実施している。就職支援については、キャリア教育の授業では日本の就職活動事情、自己分析や業界・企業分析、履歴書の書き方や面接練習なども行っている。授業外ではキャリアセンターの協力のもと、インターンシップや県内外の就職説明会などに参加している。本学の就職支援の詳細については、小川・太平・唐木(2018)を参考にしてほしい。

生活関連支援としては、外国人留学生サポート室が中心となり、新入学生の受け入れ、生活・学業上の問い合わせ、病気や事故の際の付き添いや通訳、賃貸住宅の入居手続きや住宅トラブルの支援、在留期間更新の支援等を行っている。

外国人留学生への直接的な支援ではないが、本学では外国人留学生の保護者対応や関係構築も外国人留学生支援の重要な柱と位置付けている。子どもの大学生生活に関心を寄せる保護者の増加に伴い、本学では全学的に保護者面談を行うようになったが、外国人留学生に対しても同様に保護者への説明を行う手段として現地での保護者会を行うようになった。保護者会が開始された2016年当時、本学の外国人留学生の総数は182名であり、その内訳はベトナム人156名、タイ人6名、中国人9名、韓国人6名、ネパール人1名、台湾人2名、ウズベキスタン人1名、フィジー人1名であった。保護者会を行うにあたって、まずベトナムでの保護者会が実施されることになった。次節では、ベトナムでの保護者会をどのように行っているか、また、その結果保護者からどのような意見があったかについて述べる。

## 4. ベトナム保護者会について

### 4.1 開催にあたって

開催にあたっては学生たちのベトナムでのエージェントに、保護者への保護者会開催の周知、会場の準備、行程の設定や交通手段の手配等を依頼した。日本では保護者会で使用する資料等をベトナム語と英語で作成した。具体的には、大学4年間の学習の流れや学習評価方法、大学の就職活動の取り組みとその結果を含めたスライドの作成、学生の生活状況・学習状況がわかる写真やビデオを準備した。ビデオは学生たちから保護者に対するメッセージを伝えてもらった。さらに、成績通知書と出席率、住居やアルバイトに関する情報に加え、各メンター<sup>(注3)</sup>・ゼミ担当教員からの担当学生たちの生活状況や学習状況についてのコメントをベトナム語に訳し準備した。

### 4.2 開催時期

開催時期は各年とも8月20日から31日の間の1～2週間程度である。これは、本学の前期成績の発表後からベトナムの建国記念日の前の期間である。この期間に開催したのは、本学の日本人学生向けの保護者会が夏休みに行われていること、10月に留学生別科<sup>(注4)</sup>に入学する新学生が事前学習を行っている時期でもあるからである。本学では、在学学生への保護者会を行うと同時に、新入学生へのオリエンテーションも同時期にベトナムで開催している。

### 4.3 開催場所と参加率

本学の学部<sup>(注5)</sup>に在籍するベトナム人留学生は2016年度に156名、2017年度に223名、2018年度に269名であった。本学には併設の留学生別科があり、2016年度に19名、2017年度に7名、2018年度に16名が在籍していた。学部生と別科生を合わせたベトナム人留学生数は2016年度175名、2017年度230名、2018年度285名であった。

表1 ベトナム保護者会における保護者会対象者の割合の推移

	2016年度	2017年度	2018年度
ベトナム人留学生在籍者数	175	230	285
訪問地域	5	7	9
保護者会対象者	94	164	255
保護者会対象者の割合	53.7%	71.3%	89.5%

表2 ベトナム保護者会の地域別参加率の年度別統計

	2016年度			2017年度			2018年度		
	対象者	参加者	参加率	対象者	参加者	参加率	対象者	参加者	参加率
ハノイ	53	37	69.8%	75	37	49.3%	87	54	62.1%
ハイフォン	14	6	42.9%	25	17	68.0%	30	23	76.7%
ヴィンフック	-	-	-	11	7	63.6%	12	10	83.3%
ゲアン	12	8	66.7%	19	17	89.5%	26	13	50.0%
ハティン	-	-	-	-	-	-	42	13	31.0%
ダナン	7	6	85.7%	16	10	62.5%	12	12	100%
クアンナム	8	8	100%	14	9	64.3%	31	31	100%
フエ	-	-	-	-	-	-	7	5	71.4%
ホーチミン	-	-	-	4	2	50.0%	8	8	100%
合計	94	65	69.1%	164	98	59.8%	255	169	66.3%

表1はベトナム保護者会における保護者会対象者の割合の推移を表した表である。年毎に訪問地域を増やし、保護者会の対象者を増やしてきたことで、2018年度には全ベトナム人留学生の89.5%を対象に保護者会が行えるまでになっている。

過去3年間の保護者会では、開催地および参加者数は毎年増加している。ただ日程上、在籍学生の出身地全てを訪れることは難しく、開催初年度となった2016年度はハノイ、ハイフォン、ゲアン、ダナン、クアンナムの5地域を訪れた。保護者会の対象となった人数は94名で参加者は65名、参加率は69.1%であった。2017年度はハノイ、ハイフォン、ヴィンフック、ゲアン、ダナン、クアンナム、ホーチミンの7地域を訪れ、保護者会対象者は164名で参加者は98名、参加率は59.8%であった。2018年度はハノイ、ハイフォン、ヴィンフック、ゲアン、ハティン、ダナン、クアンナム、フエ、ホーチミンの9地域を訪れ、保護者会対象者は255名で参加者は169名、参加率は66.3%であった。

#### 4.4 実施内容

保護者会では、参加者に向けた全体説明後に、各保護者へ成績・出席率やメンター・ゼミ担当者からのコメントなど配布し、個別対応・説明を行っている。

全体説明では、本学の学習や学生の活動状況を紹介している。2016年度は留学生担当職員から、4年間の学習の流れと学生活動状況の紹介に加え、学科別、学年別の履修科目の紹介と平均取得単位数などを紹介した。2017年度はそれらに加え、2017年度9月卒業生の日本での就職先や就職状況について説明した。2018年度は2018年度3月卒業生、9月卒業生の日本での就

職報告と、本学の就職支援の取り組みについて紹介した。2018年度はキャリアセンター職員が帯同し、日本での就職活動の難しさについて直接語ってくれた。

大学担当教職員からの説明後には、学生の大学での活動に関する写真やビデオを視聴してもらっている。保護者にとっては、遠く離れた子どもたちの実際の姿を見られるためか、笑いや歓声が起き、保護者会で最も盛り上がる場面である。

保護者会の最後には成績通知書と出席率、メンター・ゼミ担当者からのコメントを渡し、質疑応答した後、個別に質問がある保護者には個別対応を行う。また学習面や生活面で特別な指導が必要な学生の保護者には、時間をかけ個別の説明・面談を行い対応している。

#### 4.5 質疑応答および個別対応の内容

質疑応答や個別対応では好意的な感想が多数を占めた。例えば、「学生の生活や学習の様子が知れてよかった」、「学校の取り組みがよくわかった」、「子どもが病気になったときはお世話になった」、「今後ともよろしくご指導ください」などである。

一方、就職や学習についての質問や意見も出た(表3)。質問・意見の中では、学習状況に関するものが多く、このような質問や意見の傾向は、この3年間ほとんど変わっていない。ただ、保護者会を始めた当初、1～2年生だった学生が3～4年生になったことで、卒業後の進路に対する質問や相談は年々増えてきている。卒業生の進路や就職状況、大学院進学に関する質問などである。

保護者からの質問や意見・懸念と上述した横田・白

表3 保護者からの質問・意見・懸念

就職状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生の就職状況について詳しく知りたい</li> <li>・卒業後、どのような内容の仕事をするができるのか</li> <li>・就職活動を始める時期などを知りたい</li> </ul>
経済状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭の経済状況に対する不安や相談を聞いてほしい</li> </ul>
出席状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が低下した場合、すぐに保護者に連絡してほしい</li> </ul>
学習状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GPA, 単位取得数は適切かどうか</li> <li>・日本語の授業の時間を増やしてほしい</li> <li>・大学院進学について知りたい</li> </ul>
健康面・精神面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康面に目配りをしてほしい</li> <li>・精神的に大変な状況になったとき、励ましと支援をしてほしい</li> </ul>

主（2004）にある留学生の抱える問題とを見比べてみると、GPAや単位取得数については①アカデミックな課題の達成に、学生への励ましと支援については②青年期特有の発達の課題や⑤日本という異文化への適応に、経済状況に対する不安は③経済的自立に、日本語学習についての不安は④日本語の習得に該当する。さらに保護者は、生活面として出席状況や健康面への不安を訴え、支援を求めているということがわかる。保護者にとっては、異国の異文化で暮らす学生に、何かあったときに実質的な支援が行えないジレンマが存在する。そのため、保護者が自ら行えない支援を大学に託したいのだということがわかる。

## 5. おわりに

大多数のケースにおいて、学費や生活費を払う保護者は、進学先の決定に大きな影響力を持っている。保護者の不安や質問に応えることは、大学の学生募集にとっても不可欠なのは事実である。入学後も、保護者とはコミュニケーションをさらに深め、関係を継続・強化することは重要である。

保護者に対して大学の方針や教育、活動内容、就職などの成果を説明することは大学としての責任であると同時に危機管理、あるいはリスク管理の一環でもある。保護者に大学の方針や活動内容や成果を知ってもらうことで大学との関係性を構築し、保護者に大学の支援者の一人となってもらったり、いざ問題や事件が起こったときに協力して問題解決をしたりすることができる。日本人学生の保護者に対してこのような危機管理やリスク管理を行っている大学は多くあるが、本学のように留学生の保護者に対して行っている大学は少ないのではないだろうか。

本学では外国人留学生を本格的に受け入れてから数年が経過し、外国人留学生支援制度構築に向け取り組んでいるが、課題は未だ山積している。一つ目は留学生支援体制を制度化すること、二つ目は学内における留学生支援の意識を向上させること、三つ目は留学生の卒業生や保護者とのネットワークを構築することである。

留学生支援生徒体制を制度化するには、興味・関心の高い教職員だけが留学生支援や支援活動に関わるのではなく、大学全体がコンセンサスをもって散発的ではなく総合的に外国人留学生支援に取り組む体制をさらに整備していかなければならない。

留学生支援の意識を向上させるには、留学生担当教職員、日本語教育担当教員、学生サポート担当部署、キャリアセンター、教務課、学生寮、さらには学友会などの学生団体との有機的連携体制を作り、留学生支援状況などを常に発信し、必要な協力体制を立ち上げることが必要である。

留学生の卒業生や保護者とのネットワーク構築のためには、同窓会を結成し保護者会との交流を進めていくことが求められる。本学の留学生の卒業生数はまだ少数であるが、東京や大阪だけではなく、出身国に戻り出身国で活躍している人もいる。出身国ごとに同窓会と保護者会を同時に開催することで、保護者は就職状況についての情報を得る事ができる。卒業生の保護者を組織化し、関係を継続することも大切である。保護者会を組織化すると同時に、入学式や卒業式などのイベントへの招待や、保護者の悩みや相談を受け付ける部署を設けることも一案であろう。保護者に大学に対する理解を促し、本学のファンになって応援してもらうことが重要である。卒業後も関係を継続すれば、大学にとって卒業生に匹敵する貴重な人的資源に

なることは間違いないであろう。

(注1)「留学生アドバイジング (Foreign Student Advising)」は、もともと米国の大学において学生サービス分野における専門的業務として発展してきた(横田・白土, 2004)。

(注2)横山・白土(2004)では、①と②, 場合によっては③も日本人学生も同じであるが、④や⑤は留学生特有の課題であるとしている。

(注3)メンターとは、本学において、学習や生活全般をサポートする指導者のことである。

(注4)大学入学を目的とした日本語教育機関である。

### 参考文献

- 青木麻衣子・高橋彩(2009)「留学生サポート・デスク 一年の軌跡」『北海道大学留学生センター紀要』第13号, 北海道大学留学生センター, pp.118-134
- 一般社団法人留学生支援ネットワーク, 日本貿易振興機構(ジェトロ), 公益社団法人関西経済連合会グローバル人材育成・活用委員会グローバル人材活用運営協議会共催(2018)「教育機関における留学生就職支援関係教職員向けセミナー」2018年11月15日開催, 於AP大阪梅田東日生命ビル
- 稲井富赴代(2011)「留学生サポートの改善に向けて - 中国人留学生に対するアンケート調査から -」『研究紀要』第54・55号, 高松大学高松短期大学, pp.71-92
- 猪股歳之・高橋修・富田京子(2018)「東北大学キャリア支援センターにおける留学生キャリア支援の現状と課題」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』第4号, 東北大学高度教養教育・学生支援機構, pp.73-79
- 岡益己・安藤佐和子(2013)「留学生支援ボランティア・WAWAの活動を振り返って - その20年の総括 -」『大学教育研究紀要』第9号, 岡山大学国際センター, 岡山大学教育開発センター, 岡山大学言語教育センター, 岡山大学キャリア開発センター, pp.1-16
- 環太平洋大学国際センター(2018)「環太平洋大学の外国人留学生数推移」環太平洋大学国際センター
- 黒田忠彦(2012)「留学生支援システムの構図」『早稲田日本語教育実践研究』第1号, 早稲田大学, pp.7-23
- 城内君枝(2016)「危機管理としての保護者対応 - 2つの事例を通して -」『人間研究』第52号, 日本女

子大学, pp.145-149

西村美雪・大友美里・吉植庄栄(2017)「東北大学附属図書館本館留学生コンシェルジュ5年間のあゆみ～図書館における急増する留学生サポートへの挑戦～」『東北大学附属図書館調査研究室年報』第4号, 東北大学附属図書館, pp.95-104

日本学生支援機構(2018)「平成29年度外国人留学生在籍状況調査」

[https://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl\\_student\\_e/2017/\\_icsFiles/afieldfile/2018/02/23/data17.pdf](https://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl_student_e/2017/_icsFiles/afieldfile/2018/02/23/data17.pdf)

半沢千恵美(2018)「留学生支援の場としての日本語スピーチ大会 - 留学生と日本人学生の異文化間教育の試み -」『ときわの社論叢』第5号, 横浜国立大学国際戦略推進機構, pp.30-40

横田雅弘・白土悟(2004)『留学生アドバイジング - 学習・生活・心理をいかに支援するか -』ナカニシヤ出版

吉田昭子(2018)「留学生と読書」『文化学園大学・文化学園大学短期大学部紀要』第49号, 文化学園大学, pp.161-166